

- 問1 日本の工業地域のうち、群馬県、栃木県、茨城県の内陸部を中心に発展した地域について説明します。この地域は、かつて京浜工業地帯などに集中していた工場が、用地不足や地価の高騰を避けて移転してきたことで形成されました。製品の搬出において、船舶ではなくトラックによる陸上輸送を主軸としているこの地域の名称を答えなさい。（2022年 山口県公立入試 類似）
1. 北関東工業地域                      2. 中京工業地帯                      3. 京浜工業地帯                      4. 瀬戸内工業地域
- 
- 問2 2018年の統計において、東京国際空港（羽田）の年間旅客数は約8,000万人、成田国際空港は約4,000万人を記録し、これら東京圏の2つの空港を合わせた利用者数は一億二千万人を突破しています。この状況について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2020年 奈良県公立入試 類似）
1. 成田国際空港が国内線の中心、東京国際空港が国際線の中心として機能しており、両者を合わせても利用者数は一億人に満たない。                      2. 成田国際空港と東京国際空港は、国際線と国内線の拠点を分担しながら、世界有数の規模の旅客数を支えている。                      3. 格安航空会社（LCC）の利用が減少したことで、成田国際空港の旅客数は東京国際空港に比べて大幅に少なくなっている。                      4. 東京国際空港の旅客数は成田国際空港の約2倍であるが、両空港とも旅客数より貨物輸送量の方が多いことが特徴である。
- 
- 問3 主要な空港における旅客数の内訳を比較した際、東京国際空港（羽田空港）が「国内移動の拠点」として機能していることを示す具体的なデータの説明として、正しいものはどれですか。（2020年 奈良県公立入試 類似）
1. 国際線の利用者数が成田国際空港を大きく上回り、旅客構成のほとんどを海外渡航者が占めている。                      2. 旅客数全体を示す指標の中で、国内線の利用者が占める割合が国際線の利用者よりも数倍大きい。                      3. 輸出入額の統計において、国内向けの貨物輸送量が国際貨物の輸送量を上回っている。                      4. 国際線が占める割合が年々減少しており、現在は国内線専用の空港として特化している。
- 
- 問4 関東地方の農業統計において、生乳の出荷割合が上位である北部の内陸県について述べた文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2016年 秋田県公立入試 類似）
1. 栃木県は、平野部が広いため稲作が中心であり、家畜の飼育は関東地方の中でも非常に少ない傾向にある。                      2. 群馬県は、山地や高原が多い地形を活かして酪農が盛んに行われており、生乳の生産量は全国でも上位に入っている。                      3. 埼玉県は、東京都に隣接しているため、生乳の生産よりもコマツナやホウレンソウなどの近郊農業に特化している。                      4. 茨城県は、太平洋に面した長い海岸線を持ち、内陸部よりも沿岸部での酪農が産業の中心となっている。
- 
- 問5 成田国際空港を擁する千葉県の、訪日外国人観光に関する統計上の特徴を説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2025年 千葉県公立入試 類似）
1. 延べ訪問者数と一人当たりの旅行消費単価のどちらも全国最下位に近い水準であり、空港の活用が課題となっている。                      2. 一人当たりの旅行消費単価が全国5位以内と非常に高い一方で、延べ訪問者数は全国平均を下回っている。                      3. 成田国際空港からのアクセスが良いため、延べ宿泊者数が延べ訪問者数を上回るという逆転現象が起きている。                      4. 延べ訪問者数は全国トップクラスであるが、一人当たりの旅行消費単価は全国でも極めて低い水準にある。
- 
- 問6 日本の主な工業地帯・地域の特徴を説明した次の文のうち、京浜工業地帯について述べたものとして正しいものはどれですか。（2017年 山口県公立入試 類似）
1. 鉄鋼、化学、機械などの重化学工業がバランスよく発達し、出版・印刷や情報サービス業の割合が高い                      2. かつては官営八幡製鉄所を中心に鉄鋼業で栄えたが、近年ではIC（集積回路）の生産が盛んになっている                      3. 中京工業地帯に次ぐ全国第2位の出荷額を誇り、かつては繊維工業が盛んであったが現在は化学や鉄鋼が中心である                      4. 広大な敷地を活かした自動車工業の集積が著しく、日本最大の工業出荷額を維持し続けている
- 
- 問7 東京都渋谷区の統計によると、夜間にその区域に住んでいる居住人口は約22.4万人ですが、昼間の時間帯には周辺地域からの通勤・通学者が流入し、人口が約53.9万人にまで増加します。このような都市中心部で見られる人口の特徴について、正しく説明しているものはどれですか。（2021年 群馬県公立入試 類似）
1. 交通網の発達により、昼間人口と夜間人口の差がほとんどなくなっている。                      2. 周辺地域からの通勤・通学者の流入が多いため、昼間人口が夜間人口を大きく上回っている。                      3. 郊外へのオフィス移転が進んだ結果、通勤・通学者が減少し、昼間人口が減少傾向にある。                      4. 都心での生活コストが高いため、昼間人口よりも夜間人口のほうが多い状態になっている。
- 
- 問8 日本の高度経済成長期以降に開発されたニュータウンが現在直面している、人口構成に関する課題と変化について述べた文として、正しいものを選びなさい。（2018年 長崎県公立入試 類似）
1. すべての年齢層がバランスよく増加し続けているため、年少人口の減少や学校の統廃合といった問題は一切発生していない。                      2. ニュータウンの住宅はすべて賃貸物件であるため、住民の入れ替わりが非常に激しく、高齢化が全く進行しないという特徴がある。                      3. 一斉に入居した世代が同時に高齢者となることで高齢化率が急上昇する一方で、再開発により特定の若い世代が流入し、人口構成が動的に変化している。                      4. 開発当初から現在に至るまで、ニュータウンの住民は独身の若年層が中心であり、人口構成に大きな変化は見られない。
- 
- 問9 日本の空港間における旅客輸送数の統計において、新千歳空港や那覇空港、大阪国際空港など全国各地の主要空港と結ばれる航空路線のうち、圧倒的に大きな輸送数を示し、日本の国内航空網の最大の拠点となっている空港の名称として正しいものはどれですか。（2022年 香川県公立入試 類似）
1. 成田国際空港                      2. 関西国際空港                      3. 中部国際空港                      4. 東京国際空港（羽田空港）
- 
- 問10 関東地方のある県について述べた次の文のうち、昼夜間人口比率の観点から説明される現象として最も適切なものはどれか。なお、この県は人口密度が非常に高いものの、昼夜間人口比率は全国で最も低い水準にあります。（2020年 高知県公立入試 類似）
1. 広大な農地が広がっており、居住人口そのものが少ないため、昼夜間人口比率の変動がほとんど見られない。                      2. 県庁所在地を中心に商業施設が集中しているため、県内全域から買い物客が集まり昼夜間人口比率が100%を超える。                      3. 大規模な工業地帯が形成されており、周辺の都県から多くの労働者が流入して昼間の人口が増加する。                      4. 県外の都心部へ通勤・通学する人が多いため、昼間の人口が夜間の常住人口よりも少なくなる。
- 
- 問11 群馬県などの北関東地域では、1970年代以降、内陸部での工業生産額が大きく伸びました。また、農業面においてもキャベツなどの生産が盛んに行われています。これらの産業が発展した共通の背景として、最も適切な説明はどれですか。（2024年 岡山県公立入試 類似）
1. 大規模な港湾施設の整備が進んだことで、海外から安価な原材料を直接輸入し、大量の製品を輸出できるようになったため                      2. 新幹線の駅が各都市に設置されたことで、都市部からの労働力が確保しやすくなり、サービス業が中心の産業構造に変化したため                      3. 高速道路などの交通網の整備により、工場への部品搬入や、新鮮な農産物の都市部への迅速な輸送が可能になったため                      4. 古くからの伝統工芸の技術を現代の機械工業に応用し、地域独自の特産品をブランド化することに成功したため